

1. はじめに

トルコギキョウは周年生産が可能になり、キク、バラ、カーネーションのいわゆる三大品目に次ぐ無くてはならない花になりました。特に10月は3月に次ぐ需要期で高価格が期待できますが、和歌山県の平野部では夏の気温が高すぎるため、高品質の切り花を安定して収穫することが困難です。そこで当センターでは、比較的涼しい中山間地域を対象とした10月出し栽培の試験研究に取り組んでいます。

ここでは、昨年有田地域農業改良普及センターとJAありだ清水支所の協力を得て行った現地試験の成果を紹介します。

2. 試験方法

(1) 試験場所

有田郡清水町の標高およそ250mのビニールハウス（無加温）で行いました。

(2) 供試品種

生育期間が高温長日に当たるので切り花ボリュームを確保するため、中晩生及び晩生種に絞って検討することとし、「F₁マイレディー」ほか29品種を供試しました。

(3) 栽培概要

平成12年4月18日にコーティング種子を406穴セルトレイに1粒ずつは種しました。用土は与作N-150を使用しました。ミスト灌水を施しながら昼温35℃、夜温20℃を目標に管理し、6月15日から10℃、24時間照明の冷蔵庫で35日間低温処理をしました。

平成12年7月21日に幅90cmのベッドに10cm×10cmマス、8目のフラワーネットを張り、2,616株/a相当となるように定植しました。施肥量は窒素2.1kg/a、リン酸1.7kg/a、カリ2.2kg/aとしました。

なお、収穫調査は10月23日で打ち切りました。

3. 試験結果

収穫始めは、「F₁エクセルバイオレット」ほか8品種が10月5日から、「F₁サマーピーチ」ほか11品種が10月16日から、「天竜ホワイト」ほか5品種が10月23日からでした。また、「メモリーピンク」、「F₁プラチナバイカラーレッド」、「F₁サマーパープルローズ」は10月23日までに開花しませんでした。

収穫率は、「F₁エクセルバイオレット」、「つくしの春」、「F₁エクセルブリーズ」および「F₁エクセルピンクブリーズ」が70%を越えましたが、「メモリーピンク」、「F₁プラチナバイカラーレッド」及び「F₁サマーパープルローズ」は0%であり、大きな品種間差が見られました。

定植後のロゼットまたは抽台不良による開花遅延株率は、「つくしの春」ほか10品種が0%でした。一方、「F₁プラチナキング」、「F₁サマーキング」、「F₁サマーパープルローズ」では50%以上でした。

切り花長は、「F₁エクセルブリーズ」、「F₁プラチナバイオレット」、「F₁マイレディー」および「つくしの霧」が70cm以上で長く、有効花蕾数は、「F₁エクセルピンクブリーズ」、



図1. 試験圃場の開花状況（平成12年10月23日）

表1. 無加温10月出し栽培における品種特性

品 種	収穫始め (月・日)	* 収穫率 (%)	** 開花遅延 株率 (%)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	*** 有効 花蕾数 (個)	評 価
F ₁ エクセルパ [・] イオレット	10・5	87.5	6.3	50	19	3.2	
つくしの春	10・5	81.3	0	62	17	3.2	◎
F ₁ エクセルブリーズ	10・5	77.7	0	71	38	4.3	◎
F ₁ エクセルピンクブリーズ	10・5	73.1	0	63	40	5.7	
F ₁ エクセルローズ	10・5	56.2	3.4	54	19	3.5	
F ₁ エクセルトルフィン	10・5	50.0	14.2	53	12	2.2	
パイクロ	10・5	56.3	0	63	25	4.1	
F ₁ サマースノー	10・5	31.3	37.5	50	14	1.9	
F ₁ ポーラスホワイト	10・5	31.3	6.3	58	20	2.2	

F ₁ サマーピーチ	10・16	59.4	0	64	28	5.1	○
F ₁ ニューモラル [・] イオレット	10・16	56.3	0	62	28	4.2	
つくしの雪	10・16	43.8	3.1	58	32	3.8	
F ₁ サマームーン	10・16	37.5	6.5	56	21	2.4	
F ₁ プラチナ [・] イオレット	10・16	25.0	0	75	32	4.0	
つくしの波	10・16	31.3	20.0	52	18	3.1	
F ₁ サマーエース	10・16	25.0	19.2	55	18	2.9	
F ₁ エースホワイト	10・16	28.1	6.7	53	25	2.4	
F ₁ マイテレディー	10・16	28.1	0	71	42	5.7	○
F ₁ マイテホワイト	10・16	21.9	0	67	38	5.0	○
マイテピンク	10・16	21.9	3.3	60	28	4.6	
F ₁ サマーキング	10・16	3.4	72.4	—	—	—	

天竜ホワイト	10・23	43.8	0	51	25	3.2	
つくしの霧	10・23	31.3	3.1	78	31	2.5	
F ₁ マイテ [・] イオレット	10・23	9.4	13.8	49	24	4.0	
F ₁ スーパ [・] プリマ [・] ンナ	10・23	9.4	0	46	23	4.3	
ドレミパステル	10・23	6.3	37.5	—	—	—	
F ₁ プラチナキング	10・23	3.1	76.0	—	—	—	
メモリーピンク	—	0	9.7	—	—	—	
F ₁ プラチナ [・] イオレット	—	0	34.5	—	—	—	
F ₁ サマー [・] フルローズ	—	0	55.2	—	—	—	

* 収穫率 = $\frac{\text{切り花本数}}{\text{定植株数}} \times 100 (\%)$

** 開花遅延株率 = $\frac{\text{未発蕾の株数}}{\text{生存株数}} \times 100 (\%)$

*** 花弁長が萼片より長い花蕾数と開花輪数の合計
いずれも平成12年10月23日時点の数値

「F₁サマーピーチ」、「F₁マイテレディー」および「F₁マイテホワイト」が5個以上でした。

4. まとめ

以上の結果から、収穫率が70%以上で切り花品質が優れ、開花遅延がみられない「F₁エクセルブリーズ」と「F₁エクセルピンクブリーズ」が有望と思われました。「F₁マイテレディー」、「F₁マイテホワイト」および「F₁サマ

ーピーチ」は開花遅延がみられず、切り花品質も優れていましたが、収穫率が低かったため、定植期を早めて再検討が必要です。

当センターでは、今後も現場と連携して10月出し栽培の技術確立に向けて取り組んでいく予定です。

(園芸部 伊藤吉成)